

2017年4月16日(日)

説教:「出会い直す」

聖書:マタイによる福音書28:1~10

マタイ福音書から復活のイエスの事柄について二つの事に注目したい。一つは、「ガリラヤへ行きなさい」ということ。何故、復活後に「ガリラヤ」へ行くようにと言うのか? 「そこでわたしに会うことになる」とはどういうことか? ガリラヤは、イエスが宣教を始めた場所である。弟子たちと出会い、山や海、荒野において福音を語り、罪人・汚れた者と呼ばれた人々、病人や障がいのある方々、友無き者の側にイエスは共に居られ、一人ひとりに向き合い、癒された。そのガリラヤへ戻りなさいという。決して、エルサレムがゴールではなかった。

もう一つは、復活したイエスが、婦人たちの行く手に立って「おはよう」と言われた。復活して現われて「おはよう」はないような気もするが、ここに記されている「おはよう」は、「喜べ」とか、「平安があるように」とか、「ごきげんよう」というふうに訳されるもので、ごく一般的な挨拶として使われる砕けた感じで、沖縄口の「ハイサイ!」という感じの挨拶。復活のイエスは道の向こうでそんな何気ない言葉を投げかけてきたのだ。

復活のイエスは、墓に現われた天使と違って本当に普通の姿で、生きていた時のままの姿で、昔のままの何気ない挨拶の言葉を口にしながら、女性たちの前に現われた。イエスご自身も天使のように、いやそれ以上に神々しい姿で現われてもよかったはずであるが…。

つまりこういうことなのではないか。イエスを神々しく神格化し、祭り上げるのではなく、ガリラヤに戻り、あの日のままのイエス、ありのままのイエスを追体験すること。振り出しに戻って、あの日のままのイエスと出会い直すこと。イエスを訪ねる旅、イエスに従う道にゴールはないということ。ゴールのように、信仰が完成され悟りを開くということではなく、新たな思いでイエスに従い直していくということ。そこに復活のイエス、復活の命が働くのだということ、今朝の聖書は語っているのかと思う。

イエスを裏切った弟子たちは、イエスとの出会い直しが赦された。そのことは、もちろん私たちにもイエスとの出会い直しが赦されているということである。ゆえに、私たちは繰り返していい。「私はいつまで経っても成長しない」とか、「失敗ばかり」とか、そういうことは、私たちには良くある。でも私たちは、その繰り返しでいい。私たちは常にその繰り返しの歩みの中で、イエスと出会い直すことが赦され、復活の恵みにあずかるのである。今朝のイースター礼拝をご一緒に喜び合おう。(神谷)